

泉の自治だより

題字 白石 聰

No. 108

発行所 泉町連合区
 発行責任者 連合区会長 白石 聰
 事務局 (泉公民館内)
 土岐市泉中窪町 TEL 55-3653
 編集部長 吉川 敏 幸



平成二十五年度
 連合区要望事項
 市からの回答について
 泉町連合区会長 白石 聰

平成二十五年度連合区要望事項については、去る八月二十八日に市から回答を戴きました。今年度は、副市長より連合区三役に対し、直接回答を受けることができ、文章表現として、①の泉公民館建設につきましても、「数年のうちの事業化は困難であるが、連合区の方々と話を進める中で検討させていただきます」とのことであり、今後、継続して双方での話し合いがうまく進展すれば何か良い具休案が導き出されるのではないかと思っております。次に、②の児童センターの建設については、「来年度末をめどに土岐市子ども・子育て支援計画を作成する中で児童館・児童センターの整備計画を作成し、検討したい」との事ですが、これは幼稚園、保育園の再編計画と併せて児童センターの建設についても検討したいということとです。③の道路建設については、「事業規模が大きいため、国と協議しながら検討したい」とのことです。

が、「国道十九号の危険地帯の解消については、今年度から国交省で道路工事に入る予定」とのことですが、既に道路工事が進められています。④の暮らしに役立つ便利帳の作成については、「来年度初めに全戸配布できるような準備をすすめている」とのことです。⑤のゴミ搬入日の増設については、「年末年始以外の祝日は、通常と同様に搬入」が可能であり、又「四月から十月までの町内清掃受付日は、日曜日の午前中は搬入できる」ことになっているので、現在のところ「搬入日の増設は考えていない」とのことです。

尚、四月から十月までの日曜日の町内清掃受付日は決まっていないので、事前に環境センターへ搬入日のご確認をして下さい。

以上のとおりであります。今後とも泉町の発展のために最善を尽くしたいと思っております。どうぞよろしくお願います。

平成25年度自治会要望事項回答(泉町連合区)

要望事項	担当課	回答
1 泉公民館の建設促進(継続)	生涯学習課	現在の泉公民館は築32年で、建物更新にはいささか時期尚早と考えていますので、ここ数年のうちの事業化は困難であります。連合区の方々と話を進める中で検討させていただきます。
2 泉児童センターの建設促進(継続)	子育て支援課	来年度末をめどに、土岐市子ども・子育て支援計画を作成します。この計画では、児童館・児童センターについても検討し、整備計画を作成する予定です。
3 国道19号線・池ノ上交差点から中央自動車道新丸石橋間の道路建設(継続)	土木課・管理用地課	国道19号の危険地帯解消(国道19号池の上町交差点から土岐大橋間まで)のため、今年度より国土交通省多治見砂防国道事務所にて道路工事に入る予定です。国道19号池の上町交差点から丸石橋までの道路建設は事業規模が大きいので、国と協議しながら検討させていただきます。
4 「暮らしに役立つ便利帳」の作成(新規)	総合政策課	新たな「市民便利帳」については、来年度初めに全戸配布できるよう準備を進めているところです。
5 休日の一般家庭のゴミ搬入日増設(新規)	環境センター	現在、年末年始以外の祝日は、通常と同様に搬入できるようにしていますので、搬入日の増設は考えておりません。なお、4月から10月までの町内清掃受付日は、日曜日の8時30分から11時まで搬入できます。



これからも応援よろしくお願います。
 星城高校
 3年 川口 太一

今回の東京国体は準決勝の対福岡戦がとても苦しい展開でしたがなんとか勝ちきることができ、その勢いで優勝することができました。これで去年のインハイ国体、春高の3冠を手にして今年もインハイ、国体を取り5冠を取りました。

1月にある春高バレーが高校生活最後の大会になるのでそこで優勝して史上初の6冠を手にしたと思います。

これほどの成績が残せるのも素晴らしい仲間にも素晴らしい仲間にも恵まれ先生はじめいい環境でバレーボールができていますからだと思います。先生からも言われていますが、いつも感謝の気持ちを忘れずに生活を送っていきたいと思います。そして高校を卒業後もバレーボールを続けていき、さらなる上を目指せるように努力していきます。

2013
 東京国体を
 終えて

災害図上訓練の研修会

泉町連合区会総務 渡辺 幸一



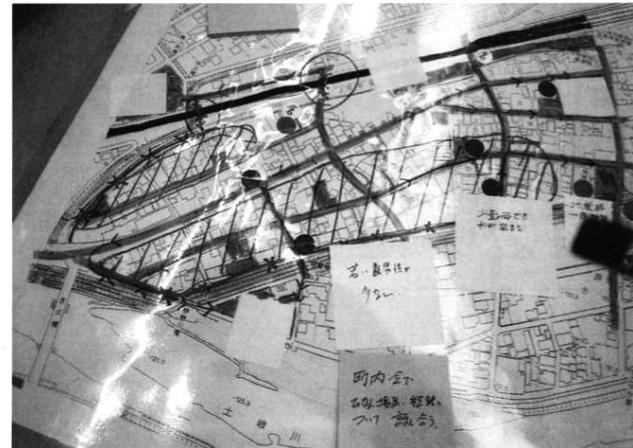
よって、災害発生時の安全と安心の獲得のための手立てとして、行政による公助はもとより、個々の自覚に根ざした自助、地域の人々による共助が必要であり、町内の様々な主体が連携して災害の被害を軽減するために行動することが求められていることから、今回研修が実施されたものであります。

災害図上訓練は、地図を用いて地域で大きな災害が発生する事態を想定し、地図と地図の上にかける透明シートとペンを用いて、地域が予測される一定の範囲の土地または物事の状態をシートの上に書き込んでいく訓練のことです。これは、危険度について、関係する当事者全員が情報を共有し、意見や情報の交換を通じて意思の疎通と相互理解を図ることの手法のひとつであります。これが、いわばハザードマップ(一定の時間内に、ある地

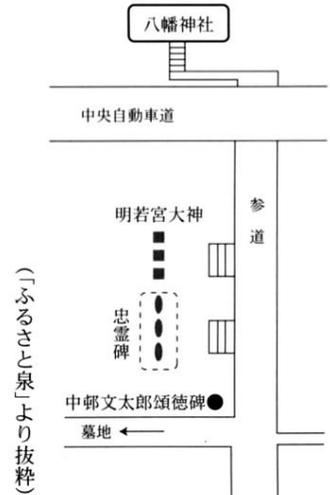
市主催による「災害図上訓練」が泉町連合区会と町内会役員の方々87人の参加にて、9月22日(日曜日)セラトピア土岐において実施されました。

これは、災害は予測できないことが多く、突然おそってくる災害はまさに恐怖であります。家族や近親者の被害、住居や財産の喪失等により、被災者は大きな体にひずみの生じた状態にさらされます。災害の程度によっては、生活の維持に必要な不可欠な、電気・ガス・水道・通信・輸送などが切断され、多くの被災者が避難生活を強いられ、不自由さや不安等から、一層ストレスに満ちた生活が続くこととなります。

域に災害をもたらす自然現象が発生する確率を図にしたもの。)の役割を果たし、事前に危険を予測できることと同時に、避難経路、避難場所、即応性ある避難準備の徹底、地域住民や関係機関において如何なる対策や連携が必要かの検討など、参加者の中で共有することが可能となる訓練でありました。



故中郎文太郎君頌徳碑



(「ふるさと泉」より抜粋)

文太郎は安政三年(一八五〇)一月十日、中村家の長男として、河合の賤洞に生まれた。

当時、賤洞から国道に出るのに細い山道しかなく、物資は、人が運んだり、馬の背に乗せて運んだりするしか方法がなかった。文太郎は、なんとかして馬車が入れるぐらいの幅の道を作ってもらいたいと願ひ、村や区に何度もかけ合ったが、冷たい返事しかもらえなかった。

文太郎は決意し、広い道がほしいと願う人々の先頭に立った。工事見積もりのための困難な測量も買って出た。昼間は測量に専念し、夜はカンテラの光に照らされた戸板の上で夜遅くまで図面を引いた。こんな状態が二ヶ月あまり続いた。

文太郎の見積もりを基礎にして、賤洞の人々は、労力や金を提供することになり、待望の工事は明治三十七年(一九〇四)に始まった。工事は難航し、当初の見積もりよりも多くの費用がかかることが判明したので、文太郎が資金づくりのために東

奔西走したができず、すべて自分で負担した。

四年間の苦しい工事の末、広くなった道は、みごと国道に届いた。数知れぬ相談や工事中の慰労会などに味飯を炊いた文太郎の家の大きい釜は、たまりの塩分のためにくさって、底が抜けてしまっていた。

明治四十年(一九〇七)、国道まで、里道と山道とで約五キロメートルに及ぶ賤洞道路が完成した。賤洞の人々は、馬車が入ると言って、それまでの苦労を忘れて喜び合った。馬車が入るおかげで、区有林の木材の搬出も容易となり、木材の値が上がり、それにつれて区有林の価値が増大し、区も非常に喜んだ。ところが、文太郎は工事の終わりがころから健康を害し、肺結核となり、道路が完成してわずか五年後の大正元年九月十二日、五十六歳にしてこの世を去った。近所の人たちは、「文太郎さは道と命を換えたんやなあ。」と言いつつ、

文太郎が没して十一年後の大

知っておきたい郷土の歴史 道と命を換えた人 中村文太郎

泉町公民館祭りチャリティーバザーのお礼

泉町連合区女性部

泉町の豊かな土で育てられたお米、野菜類などの野外での産直販売。屋内ホールでは、他での活用を求めて提供された善意の品々。チャリティーバザーは大盛況の内に終了することができました。ご提供頂いた方々、お買い求め下さった方々、本当にありがとうございました。

211,646円の売り上げがありました。公民館活動・女性部活動・そして東日本大震災復興支援などに大切に遣わせて頂きます。